

あかつき 同窓会報

編集と発行 田原東部小学校同窓会 題字 白井 優(昭和15年卒)

田原東部小学校区 H 29.4.1 現在

田原東部の人口		
地区人口	児童数 (H29.4.1)	
豊島	2,037	117
御殿山	434	100
谷相	631	42
相谷	176	6
やぐま	772	42
合計	4,050	307

印刷所 なつめ総業(有)

「同窓会」のあゆみ

同窓会長 白井 庸

(昭和三十四年卒)



過日、小学校の第七十回卒業式に参列しました。本年度は丁度六十名の卒業で、東部小学校としては三千五百七十号を数えます。

東部小学校は、前身として明治三十六年の相川尋常小学校創立に発し、東部尋常小学校、東部尋常高等小学校、東部国民学校と名称変更がありました。この間二千四十九名の卒業生がありました。これに加えると五千六百十九名、実に多くの方々が同窓生として巣立ったことに深い感慨を覚えます。平成十四年には創立百周年を祝い、現在はずで十五年を重ねています。

育の進展を目的として発足しました。当時、昭和四十〜五十年代は、プール、体育館、木造校舎から鉄筋新校舎へ、そして、それらのための校地拡張等、大きな施工関連事業が目白押しでした。これらを短期間に実現するには町の財源では不足で、幾分かを地元で負担するというのが必然でした。そこで区として学校貯金を計画したり、校区外の同窓生にも募金をお願いするということが、名簿を整備したりする等で、これらの事が「同窓会」の設立につながったようです。

「支えとなるもの」

田原東部小学校長 山本 哲男



十年程前の事。自宅の庭にいと、九十歳ぐらいのおばあさんが娘さんと思われる方に付き添われ、歩いてきました。すると、「皆さんのお宅ですよ」と話しかけてきたのです。私の祖父の名前で来ました。小さい頃、よく遊びたけれど、「ここですよ」と。その後、小学校の頃の思い出をいろいろ話してくれました。卒業後は、名古屋に出ていったそうで、今回久しぶりに実家を訪れ、これが最後になるだろうと近所を回っていたとのことでした。

その根っここそ、故郷で、家庭で、そして学校で培われたものであると思います。先日、子どもたちはPTAや地域の方のご協力を得て、田植えを体験しました。子どもたちは肌で感じた田んぼの泥の感触を一生忘れることはないでしょう。

私たちは、知らず知らずのうち、小さい頃学び、体験し、得たものを支えにして生きています。それは、生きる拠り所と言ってもいいでしょう。だから、「ここで勉強したよな」「こんなことやったよな」ということが、人生の支えとなるような教育をしていきたいと願っています。

本校に赴任してまだ僅かですが、地域の方の温かさや、学校に対するご支援に、感動すら覚えます。素晴らしい学区に育ち、子どもたちは本当に幸せです。

私たち教職員は、そのことに感謝し、豊かな教育のできる学校を目指していきたいと思えます。上辺や目先のことに追われることなく、子どもの将来に、たくて丈夫な支えとなるような教育。校庭の「えのみ木」のような教育を。

特集

「郷土の先覚者」

安保迪齋

彦坂久伸
(昭三十六年卒)

1 はじめに
相川に『安保適齋(あぼうてきさい)先生之碑』が建っているのを知っていますか。名前を聞くのは初めてと言う人も多いと思いますが、安保迪齋(適)は「迪」と書き、教え導くという意味)は、明治時代の初め小学校がつくられる前、相川と豊島に庶民のための「学校」をつくった郷土東部の先覚者です。



安保適齋先生之碑

2 安保迪齋の生涯

(一)出生
迪齋は、天保元(1830)年10月10日伊勢国河芸(かわげ)郡栗真(くりま)村(津藩、現三重県津市)に安保勝次郎の次男に生まれました。安保家は代々鋳物師を家業としていました。父が庶子(しよし)：正妻でない女性の産んだ子)だったため、迪齋は、家を継ぐ立場にありませんでした。そこで、僧侶になるために鈴鹿郡関町(亀山市関町)の瑞光寺(すいこうじ)に入山し、得度して「賢道(けんどう)」と称しました。迪齋は、無欲

で才能に恵まれ勉強がよくできたといわれています。



萬寿寺と位牌

(二)住職「賢道」
成人すると迪齋は、亀山小川町の萬寿寺(まんじゅじ)の住職に迎えられ、「第14世大芳(たいほう)賢道」(萬壽寺には「賢道」の位牌が今でも祭られている)となりました。迪齋は、多くの文化人と交流を深めました。その中には、津藩を代表する学者・齋藤拙堂(せつどう)がいました。拙堂は江戸の生まれで、その人脈には、田原藩家老・渡辺華山もいました。

(三)田原へ
迪齋の萬壽寺での生活は、長くは続きませんでした。見聞を広め、学識を深めるために寺を出た迪齋は、各地を巡り、いよいよ田原にやってきました。迪齋38歳。
迪齋がなせ田原を訪れたか。華山と親交のあった齋藤拙堂を通して田原についての情報を得ていたのではないかと考えられます。推測の域を出ません。

(四)藩校成章館の迪齋
吉胡の東光寺に住んだ迪齋は、明治三(1870)年、藩校成章館の習字や漢文の先生とし

て正式採用されます。翌年には、宣教掛(せんきょうか)かり、庶民に神道を徹底するためにつくられた官職)に取り立てられ、東京へ二ヶ月間出張します。藩校の先生に雇われてわずか三ヶ月で宣教掛への抜擢。迪齋に対する藩の評価と期待がいかに高かったかが分かります。この時、迪齋は還俗(げんぞく)僧を辞めて俗人に戻ることを「雅(ただし)」と名前を改めています。

(五)「安保塾」(かたがねべつこう)開設
迪齋が東京から帰ってまもなく、明治四(1871)年、廃藩置県が行われ成章館は廃校となり、塾は「旧藩士や庶民の子どもを教えたようです。」(田原町史)下巻189頁)

先生になるために額田県師範学校(額田県は三河全域と知多の一部が範囲。県庁は岡崎に置かれた)を卒業した迪齋は、妻・信(のぶ)華山の弟子、椿椿山(つばきちんざん)の孫)とともに片神戸村(相川)に「阿保塾」を開きます。塾は24坪の茅葺き(かやぶき)平屋建てで、すぐ横に銀杏の巨木が植わっており「銀杏屋敷」とも呼ばれました。額田県の史料に、明治五年10月「片神戸郷学校」設立の記録があります。「愛知県教育史」資料編(近代、134頁)が、恐らくこれが「阿保塾」でないかと

思われます。郷学校は、小学校の前身で一般庶民教育の基礎となったものです。



左：安保迪齋 右：渡辺英住

迪齋は、塾で教えるかたわら多くの村民とも交流しました。隆盛を極めた長仙寺の住職渡辺英住(えいじゆ)とゆ)とは一緒の写真に収まるほど親交を深めました。(田原町史)中巻115頁)

今田村(こんだむら)豊島)の糟谷佐平を始め有志の支援によって、「安保塾」は明治12(1879)年、漢文と英語を教科に、迪齋他2名の教師、塾生30名の「渥美義塾」として糟谷氏宅の門長屋(豊島安原崎)を教室として再出発します。渥美義塾は多くの優秀な人材を育成しましたが、最大の支援者糟谷氏の没落により、わずか三年で解散してしまいました。(彦坂久伸蔵『渥美義塾之由来』より)

(六)晩年
明治19(1886)年、ついに迪齋が田原を去るときがやって来ます。横浜の朝田又七宅(豊橋出身の実業家、後貴族

院議員)に一時身を寄せた迪齋は、妻・信の生まれ故郷の東京小石川に転居します。ここが、迪齋終焉の地となります。明治23(1890)年1月没、享年60歳。小石川養国寺(ようこくじ)に葬られたといわれています。



安保迪齋の墓

3 おわりに
相川町の鈴木則生さん方の墓地には、「安保迪齋の墓」と称する自然石が祭られています。鈴木家では先祖の墓参とともに「安保迪齋の墓」への墓参を欠かしたことがありません。鈴木さんは、「迪齋の墓を拝むと、字がうまくなり頭がよくなる」と子供の間から言われ続けて来たそうです。

迪齋の生涯は、三重の津に始まり、亀山、諸国行脚、田原、横浜とたどり、終焉の地は妻の故郷の東京小石川、まさに旅人でした。多くの人と交わり、多くの人を教え導き、多くの人から慕われたそんな人生だったように思います。迪齋は、たくさんのお歌を残しています。そのうちの一首は、自らの人生を詠っているかのようにです。
「いつまでか 草葉(くさば)の露に 宿とめむ 我身五十路の 秋の夜の月」
(『田原町史』中巻、1156頁)

会員の声

「故郷を思う」

小野田 政江
(昭和三十九年卒)

昨年、隣家の工事の為、竹林が伐採された際、開けた視界に思いがけず蔵王山が現れました。

豊橋に嫁いできて、数十年が過ぎ、故郷を振り返る余裕がなかった私にとつて、古い友達にばったり会ったような懐かしい感覚になり、しばらくその姿を見ていると、ふと幼き日の思い出が蘇ってきました。

私は幼い頃より、この山を見て過ごしました。遠足・運動会など天気に左右される行事の時には、家から県道にかけおり、山を見ては一喜一憂したものでした。

また、ある日、家で校歌の二番のはじめのところを「ねずみの露にはぐくまれ」と得意になって歌っている時、兄の一人が「ねずみのつゆじゃないよ、そこはね、恵みの露って歌うんだよ!」とつつこまれ、校歌を思い出すたびに苦笑してしまいます。

そんな事を思い出しながら改めて詞を読むと大変味わい深く、苦い思い出も相まつて私の中で好きな歌の一つとなっております。

昨年の田原まつりの最終日に家の二階の窓から花火が見えました。

一つ上がり、二つ上がり、自分だけで見ていてはもつたいたいと思ひ、娘、夫を呼び窓辺にもたれ、花火見物をしました。

ふるさとの懐かしさと同時に、あの頃友達が「私は太神橋の上から見たよ。」など花火の話を教室でしていた事が昨日の事のように思い出されました。

九月といえば、運動会、弁当を持って家族が見に来てくれ、走りつこの時だけは声高らかに名前を呼んでくれ嬉しかった事や、大玉送りでは竹で作られていた大玉が頭や背中を駆け、一、二年生の私には怖かったことを記憶し、同時に五、六年の上級生が優しくいたわってくれ、頼もしく思いました。

小学校の中庭は、今思うと素敵でした。春には、バラの花が咲き

良い香りがして、丸い花壇を中心に四隅に広がっており、私たちはその中を歩いて廊下の靴箱まで行くのが楽しみでした。まるで小さなバラ園か植物園のような庭を隣に見ながら授業を受けていたように思えます。

六月の週の約束は「田んぼの畦道にのらないこと!」だったかな?懐かしい畦道の風景も私たちの五感を通して、健全な精神を育んでくれたものであつたと思ひます。その感覚は今も私の心に残っている事は私の宝物です。



新睦橋付近から望む蔵王山と菜の花

今日も蔵王山を見ながら過ごしています。天気の良い日は笑って見えて、雨の日は泣いて見え、霧がかかっている日は悲しんでいるようにも見えます。まるで人生のようです。私が元気で過ごすことができるのも蔵王山を眺め勇気づけられているからだと思ひます。

「報恩謝徳」

安田雅空斗
(平成二十一年卒)

成人式とは、これまで育て守り続けてくれた両親や家族、周りの方々に感謝し、一人前の大人としての責任と義務を自覚し、社会に貢献することを誓うために執行される儀式だと言われに行われます。一足早く社会に入り働いている者、夢や目標を追いかけ学業を継続している者、現在置かれた状況の違ひこそあれ、それぞれが人生を力強く歩み、幼少期を共に過ごした仲間とこうして一つの節目の日を迎え一人も欠かすことなく迎えられることをとても感慨深く思います。

「大人としての責任と義務」私がこの言葉を真に理解するにはあと何年掛かるのだろうかと。こんな思いが私の中にはありません。成人式を迎え、先生方を含め今までお世話になつた方々とお話をする中で、それらの一端を掴んだような気がしました。

自分が幼い頃には、年上の人達はみな大人びて格好良く見えていました。しかし、年相応の人間にはなれないと感じることが多

くあります。それは何故だろかと考えた時、「大人の定義」という多くの人が一度は抱いたことがあるだろう曖昧模様な疑問を自分なりに考察しました。



2017.1.8 田原東部小同窓生

大人になる上での一つの転機だと私が思うのは、生きていく上で避けることのない壁に直面した時に「ちゃんと向き合えたかどうか」と「逃げない」ということ。全てを自力で乗り越えたいとなれば、壁を乗り越えるには、周囲の大人へ近づけるのだから、自分で入る環境を自ら作り出す必要がある。だからこそ、自分のお陰で今の自分があるという言葉を自覚して、「当たり前」に日常に溢れる「ありがとう」に気付く感謝すること。今この私が辿り着いた答えです。

学校だより

【平成二十七年 度トビックス】

スツキリ快通

児童用トイレ改修

生活様式も変わり、洋式トイレが広まっている中、学校のトイレも明るくきれいなものにしなさいという願いが叶い、夏休みを工期に、児童用トイレの改修が行われました。床も廊下と続く造りで、上履きのまま入れられるようになっています。

便器も洋式が設置されており、子どもたちも、気持ちよく使えると大喜びです。一般の方には、運動会の折に披露させていただきました。ただ、まだスリッパ使用での古いトイレもありま す。古いトイレも大切な施設であり、非常時には欠かせません。トイレだけでなく、学校施設を大切に育てたいです。



「防火貯水槽撤去」

運動場の南の地下に設置されていた防火用の貯水槽が役目を終え、撤去されることになりました。二月の中頃に、



工事が進められ、地中から掘り出された貯水槽をのぞき込んでみると、その大きさにびっくり。えの木の木の近くまでセメントの壁があつたので、これを撤去することで、えのみの木も根を思い切り広げられます。二十六年 度には、第十七号の「あかつき」でお知らせしたように、えのみの木は、樹木医による治療が行われましたが、これからはますます元気なえのみ木でいられそうですね。防火用の貯水槽以外に大切な役目を担って作られたものはたくさんあると思います。今は使われてなくても以前は必要であつたもの。感謝したいですね。

【平成二十八年 度トビックス】

防災意識を育てよう

「防災キャンプ」

十月十四、十五日に五年生五十四名が、本校の体育館で防災キャンプを行いました。本校で行う初めての防災キャンプで、地域と学校・PTA 委員が一体となり、何度も打合せ、計画が練られました。

始めは消防署員の方と地域の消防団が一緒になり、初期消火の仕方と子どもによる実地訓練が行われました。実際に火を消すことで、子どもたちの緊張感も高まりました。ご飯はPTA 委員が担当し、非常食を配付しました。子どもたちは避難所開設作りに取り組み、段ボールを使った生活スペースを考えました。他にもPTA 委員の誘導で暗い夜道を歩く避難所への移動訓練や赤十字奉仕団による「癒し」の方法を学びました。保護者参加では、非常用持ち出



し袋の確認や地域ごとの防災マップを作りました。いつ何時起こるかもしれない大災害。「備えあれば憂いなし」。今回の活動を機に、地域全体でも見直していきたいですね。

栄養満点センター給食

「栄養教諭がやってきた」

平成二十八年 度、本校に新しく栄養教諭が赴任してきました。バランスの良い食生活を見直す気運が高まる中、市内の小学校に出向いては、給食指導を進めています。本校でも給食の時間に、各学級で子どもたちと一緒に食べながら、給食指導を行っています。また、豊かな経験を生かして、一味違った調理法や子どもたちのことを考えたメニューも続々と取り入れられ、給食を賑やかせています。



【体育館時計寄贈】

平成二十八年 度の夏休み以降、体育館の時計が故障しました。学芸会前で大変困ったという学校からの要望もあり、同窓会役員で話し合っ て、時計を寄贈しましたので、お知らせします。

同窓会第十九期

役員改選される

任期満了にともない、平成二十八年 度総会で、同窓会役員が改選されました。

- △会長 △白井 庸
- △副会長 △彦坂 文男
- △書記 △北野とみ子
- △会 計 △河邊 義典
- △会計監査 △中村まさよ
- △理事 △伊与田啓美 △安田正勝
- △坂口安司 △高藻 啓充
- △山田 幸司 △高橋 静雄
- △安田 文広 △村上 洋子
- △鈴木 嘉道 △山下裕美子
- △鈴木 典一 △古瀬 ゆり
- △川口昌宏

【会報編集委員】

- 編集委員長 彦坂 文男
- 編集副委員長 彦坂 辰二
- 編集委員 北野とみ子
- 河邊 義典
- 高藻 啓充
- 村上 洋子
- 山下裕美子
- 高橋 静雄
- 鈴木 嘉道

編集後記

第 18 号の発行にあたり、皆様からのご協力、お礼申し上げます。

同窓会事務局

〒441-3417 田原市豊島町 1-3
田原東部小学校
TEL 0531-22-0179